

一度目は、結ばなかった。

二度目は、結べなかった。

三度目は、……。

靴ひもを結ぶ——

その動作が、

二人の運命を変える。

一度は家族を捨てた父親。息子との約30年ぶりの共同生活は、せつなくも愉快的発見の連続。

完璧な人なんていないし、人はいくつになっても成長する。

世界で大きな感動を呼んだ、心揺さぶる親子の物語。

母の突然の死により、一緒に暮らすことになった父親のルーベンとその息子ガディ。発達障害のあるガディは、明るく誰に対してもフレンドリーな一方で、皿の上の食べ物の配置から、寝る前のルーティンにまで、生活習慣への独自のこだわりが強く、苦手なことも多い。ルーベンはどう接したらよいか手探りで戸惑ってばかり。そんな二人がようやく打ち解けた頃、ルーベンは末期の腎不全と診断されてしまう。ソーシャルワーカーの勧めで特別給付金を申請することになり、その面接の場で、ガディは特別な支援が必要であると証明するため、靴ひもを結べないふりをするのだが……。

監督自身が発達障害のある息子の父親であり、テーマが身近であるだけに困難な挑戦だったが、「映画を通して人々の障害に対する意識を変えたい」という情熱が制作の原動力になったと語る。また、イスラエルで報道された実在の父子の臓器移植にまつわるエピソードが織り込まれ、複雑で普遍的な親子の愛憎を、予測のつかない展開で、優しさとユーモアたっぷりに描いている。タイトルの「靴ひも」は、息子の苦手な動作の一つである“靴ひもを結ぶこと”。父と息子の関係の変化と成長の象徴として三度登場するが、三度目の靴ひものシーンがもたらす展望は、観る者すべての心にあたたかい光を灯すに違いない。



www.magichour.co.jp/kutsuhimo/

監督ヤコブ・ゴールドヴァッサー | 出演ネボ・キムヒ「ボーフォートレノバンからの撤退」、ドヴ・グリックマン「オオカミは嘘をつく」「嘘はフィクサーのはじまり」| 2018年 | イスラエル | ヘブライ語 | カラー | DCP
シネスコ(2.39:1) | 103分 | 日本版字幕・小泉真祐 | ヘブライ語監修・根本豪 | 原題Laces | 後援: イスラエル大使館、一般社団法人日本発達障害ネットワーク | 配給: マジックアワー | ©Transfax Film Productions

[世界自閉症啓発デー in Hakodate × 函館市民映画館シネマアイリス 協力企画]

公開日 4/2(金)~4/8(木)

※上映時間はシネマアイリスまでお問合せ下さい

上映
劇場

シネマアイリス 函館市本町22-11
Tel 0138-31-6761 前売券1200円

お
問
合
先

世界自閉症啓発デー 函館地域実行委員会担当者まで
(担当: サポートセンターばすてる 庄司・加藤 Tel 0138-34-2611)

